



第7日

高校野球の第103回全国選手権徳島大会第7日は17日、鳴門オロナミンC球場で1回戦1試合と2回戦2試合が行われ、池田と那賀の2校が8強に名乗りを上げた。池田は中盤の猛攻で第1シードの鳴門に6-4で逆転勝ち。那賀は8-6で池田辻を下した。那賀の8強入りは1993年以来28年ぶり。第1試合の1回戦は生光学園が10-2で小松島西にコールド勝ちした。18日は2回戦3試合が行われる。



小松島西対生光学園 1回裏、生光学園1死三塁、内野ゴロの間に三塁走者の吉田が生還し1-0とする

攻守で主導権握る 生光学園

6回で8安打、10得点から攻守で主導権を握り、生光学園が序盤で快勝した。幸島監督

は「ストライクゾーンに絞つて打つように伝え

【評】生光学園が序盤の大団得点で快勝した。手の制球難にも乗じ、安芸、井手、中瀬の3連打など打者11人の攻撃で一

△1回戦(第1試合)
小松島西 10
生光学園 00
020 000
162 0100
000 X 0
— 102

(七回コールドゲーム)

拳6点を奪い逆転。三回にも吉田の右中間三塁打や小南の中犠飛で2点を加えた。小松島西は二回

小松島西 序盤に大量点

生光学園 序盤に大量点

ただけに「一本出てほつとした」と喜んだ。投げてはエース奥濱が5回を8安打2得点に抑え、六回からリリーフした春藤も2安打無失点と好投。奥濱は1回、打者2人に高めの直球を連打されながら「直球は最速140キロ出し、スライダーもよく決まつた」と手応えをつかんでいた。

高めの甘い球を見逃さず、積極的に振つてコ一

た。一回は2死から6得点しており、普段通りのプレーをしてくれた」と子だつた。ビッグイニングとなつた回、2死満塁から3番に座る1年生の安藝が真ん中低めのスライダ1球をうまく捉え、2打点稼いだ。一回の先制機は打点こそ挙げたものの、高めのカーブを引っ掛けた内野ゴロに終わつてい

ルド勝ちにつなげたのは好材料だ。半面、低めの難しい球に手を出しての凡退も見られただけに、吉田主将は「好機にもつと得意できるよう、みんなで話し合つて修正した」と次戦に向けて気を引き締めていた。

(須見十次郎)

	打安	点	振球	打安	点	振球
⑧	0	0	0	3	0	0
⑦	0	0	0	3	1	0
⑨	0	0	0	1	1	0
②	0	0	0	1	0	0
③	0	0	0	0	0	0
④	0	0	0	0	0	0
⑤	0	0	0	0	0	0
⑥	1	0	0	0	0	0
③	1	0	0	0	0	0
⑧	1	0	0	0	0	0
⑦	2	0	0	1	0	0
R	4	0	0	1	0	0
⑨	4	0	0	1	0	0
⑤	1	0	0	1	0	0
H	2	0	0	0	0	0
①	1	0	0	0	0	0
H	1	0	0	0	0	0
R	1	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
犠	0	0	0	0	0	0
盗	2	0	0	0	0	0
三塁	7	2	0	0	0	0
2	3	8	10	1	9	1

△三塁打=吉田▽二塁打=高木▽盗塁=吉田、井手、李保、谷口、奈良▽試合時間=2時間2分

投	手回	打安	振球
田	1	145	4
鳥	2	121	7
佐	1	181	2
谷	1	200	0